

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 一瀬 萌瑛

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成により 2018 年 3 月 19 日から 4 月 6 日の 3 週間、イギリスのケンブリッジを訪問しました。現地の語学学校に短期留学をしたので、報告させていただきます。

2. 語学学校

私が今回通った学校、Eurocentres Cambridge は、British Council（英国政府の教育認定機関）により認定を受けている語学学校であり、また、提供する語学指導とサービスの質にて、一定以上の基準を満たす学校のみによって構成される語学学校連盟、English UK（英国政府の認定を受けた学校団体）の加盟校でもあります。Eurocentres Cambridge には、イギリスの大学への進学を目指して勉強している生徒も多く、また、休暇を取ってビジネスのために英語を学びに来ている社会人の方も多くいたので、すごく刺激になりました。

各クラスに担任の先生がいるのですが、その先生の英語だけに慣れてしまわないように、午前中の授業は時間を区切って二人の先生によって行われました。授業内容は様々で、教科書を用いて読解をした後、ペアで教科書に問われているそれぞれの質問の答え合わせをしたり、音楽を聴きながら配られた文章を順番通りに並べていたり、文法について勉強したり、様々な事柄についてペアで賛成か反対かを述べ討論したりするなど、多岐に渡っていました。



3. 学生寮

語学学校から徒歩 15 分ほどの Tripos Court という学生寮に滞在していました。この学生寮では様々な語学学校に通う生徒が生活しており、多くの国の人と出会うことができました。中でも、オマーン出身の生徒は、自身の宗教のことやベジタリアンについて詳しく教えてくれ、国ごとに異なる国民性や価値観、モノの見方や考え方などを話し合うことができ、日本にいただけでは気づけない価値観の違いに気づくことができました。

4. おわりに

在学中に絶対に留学に行きたいと前々から思っていたので、今回、国際交流基金助成事業のおかげで目標を一つ達成することが出来て本当に感謝しています。留学に行く前、海外で働く上でも、グローバルな何かに取り組むにも「世界を舞台に活躍できる人間」になるためには最低限英語は必須な条件だと思っていました。この考えは間違っていないと思います。しかし、今回の留学を経て「海外の人間と交流する楽しさ」というのを実感しました。英語ができるようになることで、私たちの世界は何倍にも何十倍にも広がります。留学に行く前は、単に「やるべきことの一つ」であった英語が、意欲的に楽しんで勉強できるモノになったこと、私自身の意識が格段に変わったことが今回の成果だと思います。

